

津村節子先生記念碑建立さる

桜の花びらが舞い散る4月3日（土）、八幡神社の境内にて、狭山市とゆかりのある作家、津村節子先生の記念碑の除幕式が行われました。

津村節子記念碑建立委員会の 大野松茂委員長（当連合会顧問、狭山市名誉市民）は、津村先生と狭山市のご縁を結ぶ証としての記念碑建立を長年に亘って願ってこられたのですが、この度、ご自身を初めとする関係者のご尽力により記念碑が境内に完成しました。

教育長、加賀谷市議会議長、小川当文団連会長、氏子総代、建立委員



津村節子先生記念碑

会メンバーなど関係者が参席。最初に青田八幡神社宮司による神事で「除幕の儀」が執り



除幕の儀（八幡神社境内）

除幕式には、来賓として津村先生、ご家族ご親族を迎え、狭山市から小谷野市長、向野



津村先生ご家族と大野松茂委員長（右）

行われ、次いで、大野委員長、津村先生、小谷野市長の挨拶があり、先生への花束贈呈にて閉式となりました。

津村先生は、戦争が激しくなった昭和19（1944）年、16歳の時に母の実家があった入間川町に疎開して来られ、青春時代の8年余りをこの地で過ごされました。

その様子は自伝的小説「星祭りの町」（平成8年2月新潮社刊）に鮮やかに描かれていて、記念碑にはその一節が刻まれています。

ご挨拶の中で、先生は、幼い頃から母に連れられて毎年夏に遊びに来ていた頃の思い出を語られ、「ここは私の第二のふるさとです」と何度も仰っておられたのが印象的でした。



花束贈呈